



一人一人が輝く学校を目指す 杉並区立神明中学校



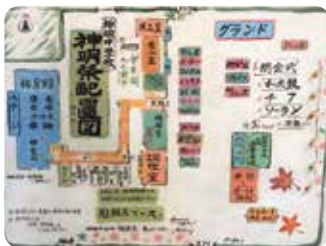
このシリーズの第6回は、神明中学校の山内清一校長先生からお話を伺いました。

★概要

神明中学校（以下「神明中」）は1947年（昭和22年）に区立下荻中学校として桃井第二小学校内に設置されたが、翌年には神明中と改称され現在の校地に移っています。今年度は開校して74年目を迎え、校訓である「自主・自律」を目指すことと、教育目標である「創造・鍛錬・共生」（校訓と合わせて「神明ファイブ」）をもとに教育がなされています。在籍する生徒数は289名（2021年1月1日現在）、9学級からなっています。緑豊かな森に囲まれた天祖神社に隣接し、静かな住宅地に立地しています。学区の保護者は教育に熱心な方が多いうえ、町会・自治会を中心に地域の方々の学校への協力が積極的な環境にあります。今回の取材、新型コロナウイルス感染症拡大によって学校運営でご苦労なされている最中に、快く受けてくださいました。

★学校の特徴

神明中には、学業面のみならずスポーツや芸術面で優れた成果を上げてきた伝統があります。「スポーツの神明」、「勉強の神明」（数学・英語で少人数授業を実施）、「行事の神明」と呼ばれる所以です。そして目指す学校像に「一人一人が輝く学校」をあげていますが、生徒、保護者、地域、教職員のすべての人々が生き生きと活動し、信頼され、信頼できる学校となることを目指しています。この背景に長い間学校を支えてきた学校支援本部の活動があります。行事支援のみならず、『神明塾』、『サタスタ』では地元の専門家やボランティアがチューターになって役割を担っています。また学校のコミュニティスクール（CS）化の一環として2016年から学校運営協議会が立ち上がり、学校経営全般で神明中を支えています。



「神明祭」の案内図



生徒会活動の様子

★具体的な教育活動

特色ある教育活動として以下の6点をあげています。

- ① 生徒会活動の充実（固有の活動に加え、関係小学校へのPR、働きかけ、ホームページへの活動掲載、ボランティア活動など）
- ② 学校行事では体育大会（今年度も規模縮小・内容精選で実施）、文化発表会と地域文化行事としての『神明祭』（質の高い中学生による文化の創造、活発化寄与）の実施。また今年度もコロナ禍の下ですが、3年生の修学旅行は注意深く行われました。
- ③ チューターによる授業支援と学習支援（『神明塾』、『サタスタ』（土曜日の補修活動））
- ④ 食育、環境教育、人権教育、ボランティア活動
- ⑤ 学校支援本部と連携した『神明クラブ』の運営
- ⑥ 高井戸第四小学校と連携した系統性・連続性のある取組（学習の連続性、サミット・遊びのフェスタ、中学校体験など）



体育大会の風景



修学旅行にて

★山内校長の思い

山内校長によれば、第1に「自主、自律の神明」といわれるほど校訓は、卒業生のなかに定着している。生徒たちが成長したとき「自分で考え、自分の意思で決定し、自分で責任をもつ」ための指針となっており、この伝統を引き継いでいきたい。3年生には2学期末に個別面接を行っているとのこと、自らの成長ぶりを客観的に語る生徒がでてくるなど、校訓・教育目標が生かされているのを感じるということです。2番目は地域とともにある学校を作っていきたい。学校支援本部、学校運営協議会、町内会、保護者から多くの支援を受けているが、今後とも学校教育のなかに融合させていきたいと山内校長はおっしゃっていました。

杉並区立神明中学校

住所:167-0052 東京都杉並区南荻窪2-37-28 電話:03-3333-7428
ホームページ:www.suginami-school.ed.jp/shinmeichu/